

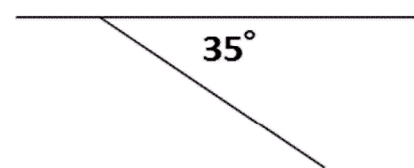
BHTV画像が取得できなかったことから、既知の破碎部から当該破碎部の姿勢を再現することにより、当該破碎部の最新活動面の走向・傾斜 (No.82) を見直し

- 下の写真の通り、コアにおける見かけの傾斜は、最新活動面 (49.26m) で傾斜は $35^\circ$ 、マーカー (47.40mの面) で傾斜 $45^\circ$ である。

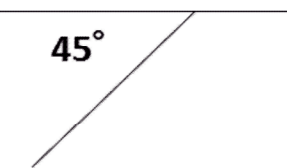
研磨片写真



最新活動面 (49.26mの面)



マーカー (47.40mの面)



凡例	
<span style="color: red;">---</span>	最新活動面
<span style="color: blue;">---</span>	破碎部上端面

BHTV画像が取得できなかったことから、既知の破砕部から当該破砕部の姿勢を再現することにより、当該破砕部の最新活動面の走向・傾斜 (No.82) を見直し

- 前頁までの結果に基づき、47.40mと49.26m間のコアの元の姿勢を再現した。



47.40mと49.26m間のコアの元の姿勢を、48.00-49.00m間のコアを固定して再現した。



47.40m付近拡大



49.26m付近拡大



47.40mと49.26mの研磨片を元の姿勢で結合

47.40mの破砕部の研磨片

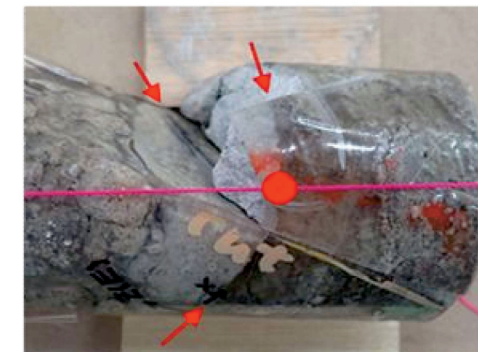
49.26mの破砕部の研磨片

BHTV画像が取得できなかったことから、既知の破碎部から当該破碎部の姿勢を再現することにより、当該破碎部の最新活動面の走向・傾斜 (No.82) を見直し

- 47.40mと49.26mの面のコアにおける見かけの最大傾斜方向のなす面間の角度は70°である

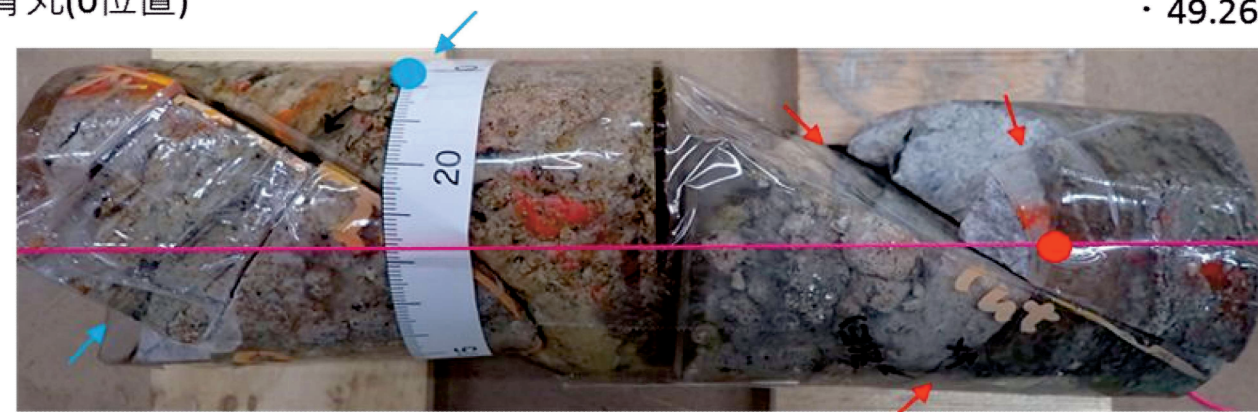


47.40mと49.26mの研磨片を元の姿勢で結合



- 47.40mの面の下端は青丸(0位置)
- コア全周は22.7cm

- 49.26mの面の下端は赤丸(水系位置)



- 47.40mと49.26mの面の○印間のコア表面距離は4.4cm
- コア全周22.7cm : 360° = 4.4cm : 面間の角度  
面間の角度 =  $360 \times 4.4 \div 22.7 = 69.78 \approx 70^\circ$

凡例	
49.26mの面	49.26mの面の楕円の頂点
47.40mの面	47.40mの面の楕円の頂点

BHTV画像が取得できなかったことから、既知の破砕部から当該破砕部の姿勢を再現することにより、当該破砕部の最新活動面の走向・傾斜 (No.82) を見直し

- 前頁までの検討に基づき、以下の方法で最新活動面の走向・傾斜をN21W21Eと推定した。

### H24-B14-2孔 49.26mの破砕部(最新活動面)の走向傾斜について

- 走向・傾斜を取得している47.40mの面を基準に、49.26mの最新活動面の走向・傾斜を以下の手順で検討する(ステレオネット使用)。
- ①47.40mの面を、ボーリングコアでの面の短軸を回転軸として、49.26mの面の見かけの傾斜角の差(10°)だけ回転する。  
⇒47.40mの面のみかけの傾斜角を、49.26mの最新活動面の見かけの傾斜角に合わせる。
- ②コア箱に収まっている状態での、47.40mの面と49.26mの面の見かけの最大傾斜方向(ボーリングコアでの面の長軸方向)のなす角(コア写真から70°と推定)だけ回転する。  
⇒みかけ上の姿勢を合わせる。
- ③ボーリングの掘進方向を回転軸に、コアの回転角度(61+150=211°)だけ回転する。  
⇒コアが回転している分回転させる。
- 結果、49.26mの面の走向・傾斜をN21W21Eと推定した。

